今の車両はもうすぐ引退！？

嵯峨野トロッコに乗りに行こ！

京都 うろつきまわりんぐ

嵐山－亀岡間をおよそ25分かけてゆっくりと走る「嵯峨野トロッコ列車」。沿線には保津峡の美しい景色が広がり、四季を通じて嵐山観光に欠かせない存在として多くの人に親しまれています。実は、現在の車両は今年12月をもって引退予定。長年活躍してきた姿を見られるのは、残り半年ほどです。今しか味わえないレトロな列車への乗車体験を、ぜひこの機会に楽しんでみませんか？　（りんだ）

まだ乗れる！

引退間近のレトロ車両！



現在の嵯峨野トロッコ列車は、DE10形ディーゼル機関車がSK100・200・300形客車５両をけん引する編成で運行されています。DE10形は旧国鉄時代に数多く製造された機関車で、嵯峨野トロッコでは1104号機と1156号機が活躍しています。車体中央がくびれた独特の形状から「凸型機関車」と呼ばれ、その力強い姿はファンの間で高い人気を誇っています。

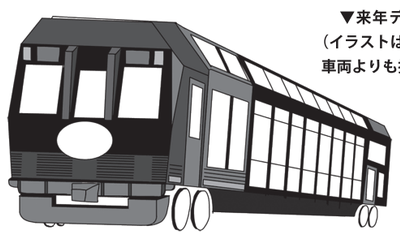
客車もまた旧国鉄時代の貨車を改造したものが使われており、レトロな外観・内装が印象的です。どの車両からも美しい景色を楽しむことができますが、特に５号車「リッチ号」は窓がなく天井がガラス張りになっているので、ひときわ開放的な眺めを味わうことができます。

こうした魅力をもつ現在の車両ですが、老朽化に伴い、今年末をもって引退することが公式に発表されています。ゴトゴトと揺れながら走行するこのレトロな車両に乗車できる機会も、いよいよ限られたものとなってきました。

◀現在の嵯峨野トロッコで使用されている編成。先頭がDE10形機関車で、その直後に連結されているのが「リッチ号」

気になる新たなトロッコ列車は!?

来年導入される新型車両は、現在の車両のデザインを受け継ぎながらも、ガラス面を増やすことでより開放的で眺めの良い車内空間となる予定です。さらに、座席配置の異なる特別室（正式な呼称は未定）も設けられるなど、新たな魅力のある車両となりそうです。よりグレードアップしたトロッコ列車にも、ぜひ乗ってみたいですね！



▼来年デビューする新型車両（イラストは筆者作成）。窓が現行車両よりも拡大されている

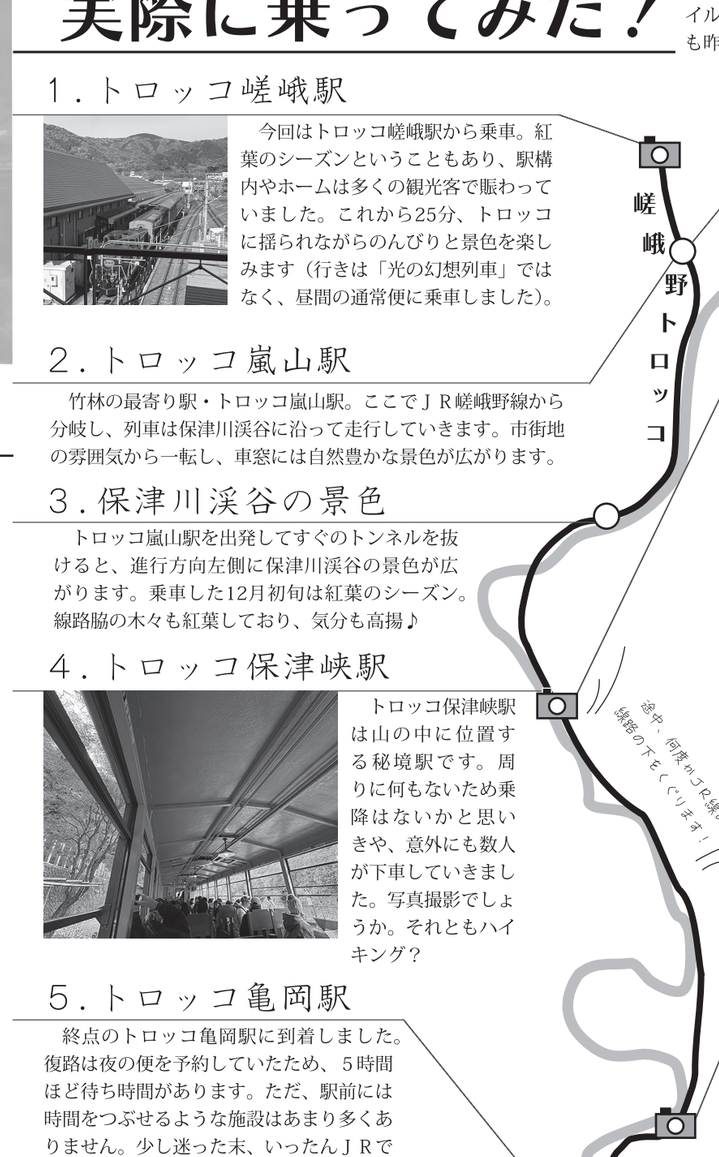
はみだしすてーじ

京大の自習スペースを特集していたのはどの号ですか？　（忘れてしまいました泣）
⇒2025年６月号の「ぶんこも」の特集でしょうか？

（農・１　==3）
（過去の記事はネットからいつでも見れます；編）

実際に乗ってみた！

嵯峨野トロッコでは10月末から12月末にかけて、ライトアップやイルミネーションを楽しめる「光の幻想列車」が運行されます。筆者も昨年（2025年）の12月初旬に乗車してきました。



1．トロッコ嵯峨駅

今回はトロッコ嵯峨駅から乗車。紅葉のシーズンということもあり、駅構内やホームは多くの観光客で賑わっていました。これから25分、トロッコに揺られながらのんびりと景色を楽しみます（行きは「光の幻想列車」ではなく、昼間の通常便に乗車しました）。

2．トロッコ嵐山駅

竹林の最寄り駅・トロッコ嵐山駅。ここでＪＲ嵯峨野線から分岐し、列車は保津川渓谷に沿って走行していきます。市街地の雰囲気から一転し、車窓には自然豊かな景色が広がります。

3．保津川渓谷の景色

トロッコ嵐山駅を出発してすぐのトンネルを抜けると、進行方向左側に保津川渓谷の景色が広がります。乗車した12月初旬は紅葉のシーズン。線路脇の木々も紅葉しており、気分も高揚♪

4．トロッコ保津峡駅

トロッコ保津峡駅は山の中に位置する秘境駅です。周りに何もないため乗降はないかと思いきや、意外にも数人が下車していきました。写真撮影でしょうか。それともハイキング？

5．トロッコ亀岡駅

終点のトロッコ亀岡駅に到着しました。復路は夜の便を予約していたため、５時間ほど待ち時間があります。ただ、駅前には時間をつぶせるような施設はあまり多くありません。少し迷った末、いったんＪＲで京都駅まで戻ることにしました。



9．嵐山へ帰還

数々のトンネルを抜け、列車はトロッコ嵐山駅まで帰ってきました。保津川渓谷の景色はここで終わりですが、実はこの先、もうひとつ面白いポイントがあります。列車は終点までの間ＪＲ線に合流するのですが、その際右側の線路に進入するため、いわば「逆走」することになるのです。

8．駅のイルミネーション



列車はゆっくりとトロッコ保津峡駅へ。夜の秘境駅はさぞかし真っ暗……と思いきや、駅全体がイルミネーションで鮮やかに彩られていました。闇に浮かぶ光の粒がまるで別世界のような空間を作り出しており、まさに「光の幻想列車」という名の通りの、幻想的なひとときでした。

7．紅葉のライトアップ



保津川の対岸の山々にはライトアップされた紅葉が浮かび上がります。列車はここで一旦停止。初冬の張りつめた空気に、一筋の汽笛がこだまします。

6．再び出発



さて、帰りの便の時間になりました。いよいよ夜のトロッコ列車での旅が始まります。車内は落ち着いた雰囲気でしたが、ホーム上ではスタッフの方が歌や踊りを披露しており、賑やかな出発となりました。

（エ・２　ゼロ）
（ぜひご愛読ください；編）

はみだしすてーじ

桜舞う季節にあなたに出会えたことに感謝
⇒こちらこそ。